

岡山大学工学部 同窓会報

No.36

2024.8



Contents

工学部長挨拶	3	各支部報告	18
代表幹事挨拶	4	エッセイ	20
退職にあたって	5	工学部同窓会会則の改正	24
各系の最近の話題	6	寄付者一覧	25
東京大学教授 菅 裕明 氏 日本学士院賞受賞	9	会計報告	26
工学部学科同窓会活動報告	10	同窓会事務局より	27
職場紹介	14	編集後記	28

工学部の近況について

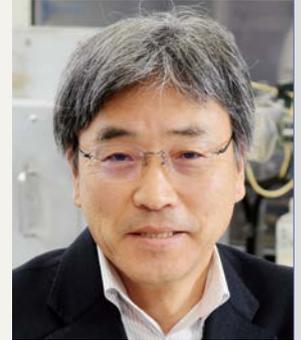
存知の通り、工学部と環境理工学部が再編統合され、令和3（2021）年4月に新たな工学部が誕生しました。令和6（2024）年度はいわゆる完成年度にあたり、新工学部の1期生のほとんどは4年次に進級し、卒業研究を始めています。旧工学部の学生もまだ100人程度在籍していますので、なるべく早い時期に卒業できるよう、引き続きサポートして参ります。

令和5（2023）年4月には大学院の改組も行われており、自然科学研究科と環境生命科学研究科が再編統合され、環境生命自然科学研究科が設置されました。新工学部が1学科制になったように、新研究科も1専攻制になりました。従来は、専攻の中に講座が置かれていたのですが、新研究科は学位プログラム制に移行し、学位プログラムの中に従来の講座に相当するコースが置かれました。学位プログラムというのは、学生に修士や博士の学位を取得させるにあたり、各学位のレベルと分野に応じた達成すべき能力を明示し、それを修得させるように体系的に設計した教育プログラムを表します。新研究科では、博士前期課程と博士後期課程にそれぞれ4つの学位プログラムが置かれるとともに、3つの特別コースと4つのサブプログラムが開設されました。詳細は新研究科のホームページ（<https://www.elst.okayama-u.ac.jp/>）をご覧ください。新工学部を卒業した学生のほとんどは、環境生命自然科学研究科かヘルスシステム統合科学研究科に進学することになります。

新工学部では新たに、令和6年4月に情報工学先進コースが設置されました。このコースでは、情報工学をより早く（低学年次から）、より先まで（大学院まで）学びたい人のコースで、大学院進学を前提とした6年一貫の教育プログラムを導入しました。このため、4つの系とは独立した位置づけがされており、学生は1年次からコースに配属され、コース独自の専門科目を履修します。新コースの設置により新工学部の入学定員は640人となり、さらに大きな所帯になりました。情報工学先進コースの詳細はホームページ（<https://www.engr.okayama-u.ac.jp/admissions/new/ie/>）をご覧ください。

このように、学部だけではなく、大学院も大きく変わりました。いずれの改組も、分野横断的で実践的な学びを可能とすることを狙っています。来年の令和7（2025）年4月には、改訂された新学習指導要領のもとで勉強してきた高校生が入学してきます。岡山大学ではこれに対応するために、Target2025と称して学士課程教育の再構築の準備を進めています。新工学部においても、カリキュラムと3ポリシーの改訂作業を行っている最中です。

教育組織の再編に留まらず、教育の内容や方法についても、毎年見直しを行いながら、継続的にアップデートしていくことが必要となっています。国や大学から配分される予算は年々削減されています。毎年1.6%の減額に加え、今年度は更に3%の減額が上乘せされました。減り続ける教育研究費を埋めるべく、先生方は外部資金の獲得に奔走している状況です。工学部同窓会ならびに同窓生の皆さまには、これまで様々な形でお力添えいただきましたが、学生さんの修学環境を維持・向上するためにも、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



工学部長
難波 徳郎

工学部同窓会からのご挨拶



工学部同窓会代表幹事

船曳 繁之

(1976年電気工学科卒)

2023年5月より新型コロナへの対応が変更され、それまでの外出自粛の生活から以前の自由な生活と行動に戻ってきています。インバウンドも進み、観光地では海外からの多くの観光客が見受けられ、賑わいを増しています。しかし2024年元日に発生した能登半島での地震の被害は大きく、これの復興はこれから長い年月が必要になりそうです。また、3月には千葉県沖での地震が続いており、地震大国日本の今後の対応策の検討が急務だと考えますが、国会は裏金問題で困窮しており、政治の安定と災害への対応を急ぎ、日本の国力高揚に向かって主導してほしいものです。

工学部同窓会では、2023年10月の岡山大学ホームカミングデイ開催日に、新しく建設された共育共創コモンズで同窓会報告会を開催しました。また、報告会終了後に4年ぶりの懇親会を南福祉施設（ピーチユニオン）で開催しました。報告会には難波工学部長をはじめとする先生方と同窓生を含めて40名が出席し、学部長挨拶の後、同窓会活動、支部活動、同窓会会則の改訂が報告されました。懇親会には那須学長に出席頂き、ご挨拶と岡山大学の現状等について説明して頂きました。出席者は43名で、和やかな雰囲気の中で会員同士の親睦が行われました。これらについては、同窓会ホームページに掲載していますのでご確認ください。2024年も同様に、岡山大学ホームカミングデイに併せて開催する予定ですので、同窓生の皆様のご参加をお待ちしています。

工学部同窓会では、支部活動も行っており、卒業生相互の親睦と情報交換を行うことを目指しています。大学卒業後の活動および親睦の場として多くの同窓生が集い、ますます活躍の場を広げて行っていただきたいと願っています。同時に全学同窓会とも連携を取り、他学部の同窓生とも連携の輪を紡ぎ、そして広げてほしいと思います。

最後になりましたが、在学生および卒業生の皆様のご健勝とご活躍をお祈りします。そして、引き続き工学部同窓会への支援と活動への協力を併せてお願い申し上げます。



2023年同窓会報告会（共育共創コモンズ）



懇親会

退職にあたって

新しい工学系教育の未来に思いを馳せて

化学・生命系

木村 邦生



28年間の長きに亘り、大変多くのご厚情を賜りました。衷心より感謝申し上げます。

私は、環境理工学部発足から半年後の平成7年4月1日に講師として着任し、山下祐彦教授（現名誉教授）と共に環境物質工学科で研究室を運営させて頂きました。当時は、国立大学として“環境”を冠とした学部は岡山大学環境理工学部以外にはなく、大変意気に感じ、使命感と高揚感に包まれたことを思い出します。着任前は関西の企業に勤務していたために、平成7年1月の阪神淡路大震災を直に体験しました。復興もままならない中での赴任で、山陽新幹線が復旧していなかったために大阪駅から在来線で姫路駅まで行き、新幹線に乗り換えて岡山駅まで来ました。在来線の車窓から見た震災の爪痕が残る神戸の街並みが今でも鮮明に脳裏に焼き付いています。地震などの災害の少ない岡山に赴任することへの安堵と地震への恐怖が入り混じった複雑な心境でした。奇しくも定年退職となった令和6年の1月にも能登半島で大規模な地震が起これ、強靱な国土を造ることの大切さを再認識した次第です。

環境理工学部では、高分子化学を中心に教育・研究に従事させて頂きました。大学院環境学研究科が立ち上がるまでの最初の4年間は大学院工学研究科を兼任し、旧工学部の学生さんにも研究指導を行いました。研究内容は高分子化学と高分子物理を組み合わせた重合相変化法を用いた高性能高分子材料の開発や不均一重合場を利用した精密重縮合法の開発が主でしたが、教授として研究室を主宰してからは、山崎慎一准教授や新史紀助教とともにプラスチックの効率的なりサイクル技術や新規アップサイクル技術の開発、高性能バイオプラスチックの合成研究など環境問題の解決に資する研究も精力的に取り組みました。学生さんの自由な発想により、研究が進展したことを嬉しく思い出します。令和3年4月に環境理工学部と工学部が統合し、環境教育を組み込んだ新しい工学教育を目指すことになりました。大規模改組の計画が持ち上がった際は環境理工学部長の職にあり、皆様に大変なご苦勞をおかけしましたこと、申し訳なく思っ

ております。皆様のご理解とご協力により、中四国最大規模の工学系学部が誕生することになりました。現在、国公立や私立を問わず、各大学では新機軸による工学教育を提供しようと模索が続けられています。このことが、兎いては現在の日本における工業界の停滞感や閉塞感の打破に繋がると考えられるからです。岡山大学の新生工学部は、地球環境への貢献という新機軸を打ち出した新しい工学教育を提供する学部として注目されています。今年度が新生工学部第一期生の卒業年度であり、世の中に真価を問う大切な時期に来ています。第一期生の巣立ちを見届けることは叶いませんでしたが、定年退職という時の定めですので致し方ありません。私の思いは、現役の教職員の皆様に託させていただきます。

2018年の世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）でカナダのトルドー首相が「今ほど変化のペースが速い時代は過去になかった。だが今後、今ほど変化が遅い時代も二度とこないだろう。」との名言を残されました。まさにその通りに時代は動いており、SNSの急速な普及や生成AIの出現など凄まじい勢いで革新的な技術が産み出されています。これらの新技術をうまく使いこなしながら更なる技術革新へと繋げていくことが重要ですが、フェイクニュースに代表される負の側面が持つ危険性もしっかり認識せねばなりません。革新的新技術を使いこなすためには、当然ながらスキルのアップデートが必須ですが、忘れてはならないのがマインドのアップデートです。最近になって、SNSでの誹謗中傷が蔓延し、加えて大規模な戦争や国際地域紛争が勃発したことによって、多くの人々の尊厳がいつも簡単に破壊され続けています。加えて、喫緊の全世界的課題である環境問題に関しても取り返しのつかないほど深刻化してしまいました。自然と共生できる健全な社会を形成するためには、正しい倫理観に基づいた人と技術の関りへの確かな理解力を涵養することが大切で、学部教育の大きな使命です。倫理観は時代によって変わっていくように見えるかもしれませんが、その本質は不変であり、その根底にあるのは人として互いを尊重し、尊厳を傷つけないということです。尊厳の尊重を理念に掲げた組織で教育を受け巣立っていく若者こそが、これからの社会をより良い方向へと導いてくれると信じています。組織が巨大化すると大企業病に感染しがちです。意思決定の敏捷性を失うことなく、未来を志向した魅力溢れる工学部として日本の工業界を牽引されることを期待しています。

環境理工棟周りの桜満開のころ、新生工学部の未来に思いを馳せて。

機械システム系の近況報告

機械システム系・系長 松野 隆幸



2021年度に工学部は統合再編し、4年目を迎えて今年度末に新工学部の卒業生を送り出すこととなります。これから新カリキュラムの評価が始まり、評価とともに改善を続けていかねばと心が引き締まる思いです。また、2023年度は

大学院環境生命自然科学研究科の新設に伴い機械システム都市創成科学学位プログラムという新しい枠組みで教育研究環境を提供することになりました。また、コロナウイルス蔓延防止のための行動制限が原則なくなり、対面講義や実験実習のために学生が常時登校することになってキャンパスに活気が戻ってきました。機械システム系では、多くの産業技術分野で活躍できる技術者を育成するために、機械システム工学の基礎学力や応用能力を養うだけでなく、課題探求能力、デザイン能力およびコミュニケーション能力を高める教育プログラムを実施しています。

研究室の活動におきましては、工学部実験研究棟が工学部6号館の北側に建設され本格的に稼働したことが挙げられます。工学部実験研究棟には流体実験室、電熱工学実験室、知能機械システム学実験室などが設置され、機械システム系の各研究室の新たな活動の場となることが期待されております。

最後に機械システム系の教員移動について紹介します。令和5年8月31日付けで、機械工学コース大西孝助教が退

職されました。令和5年9月1日付けで、ロボティクス・知能システムコースLee Jieun助教が韓国Pukyong National UniversityにAssistant Professorとして転出されました。令和5年9月30日付けで、ロボティクス・知能システムコース村田厚夫教授が退職されました。令和6年3月1日付けで、ロボティクス・知能システムコース永井伊作助教が松江工業高等専門学校に准教授として転出されました。令和6年3月31日付けで、機械工学コース呉景龍教授が定年退職されました。令和6年3月31日付けで、ロボティクス・知能システムコース有菌育生教授が定年退職されました。令和6年4月1日付けで、ロボティクス・知能システムコース平田健太郎教授が同志社大学に転出されました。新たなメンバーとして、令和6年4月1日付けで、田中俊二教授がロボティクス・知能システムコースに着任されました。また、楊家教授が令和6年4月1日付けで助教より昇任されました。亀川哲志教授が令和6年4月1日付けで准教授より昇任されました。



環境・社会基盤系より

環境・社会基盤系・系長 永禮 英明



新工学部がスタートして3年がたちました。一期生が4年生となり、この4月から特別研究(卒業研究)に取り組み始めたところです。学生は進学か就職か、また就職する場合は就職先を決めなければいけません。新工学部での新しいカリキュラムで育った学生がどのような進路

を選択するのか、不安でもあり、また楽しみでもあります。

環境・社会基盤系は環境マネジメントコース、都市環

境創成コースから構成されます。母体はそれぞれ環境理工学部の環境管理工学科と環境デザイン工学科で、一方は農業土木、他方は土木工学に関し教育していた学科です。いずれも人々の生活圏の土台を構築することを目的とした学問領域です。あまりにも身近にあるために、多くの人はその存在や重要性を忘れてしまうようなものを教育・研究の対象にしていますので、「じみ」な分野なのかもしれません。

しかし、卒業生は社会において極めて重要な役割を果たしていると考えています。令和6年のお正月には能登半島で大きな地震があり、揺れそのもの、また地震に伴う火事、

津波で多くの被害が生じました。4ヶ月たった5月時点でも、まだまだ復旧に時間がかかりそうな状況です。この地震の発生直後から自治体職員、土木作業員をはじめとする多くの人たちが応援に駆けつけ、復旧作業にあたっています。このような人たちこそ、我々と志を同じくし、同じような教育を受けた人たちなのです。環境管理工学科、環境デザイン工学科の卒業生の中にも、現地で作業した人がたくさんいるはずですよ。

我々の分野の特徴は「公共心」にあるのだと思います。テクノロジーがいかに発達し、人々の行動様式、都市の姿が変わろうとも、我々自身はこの精神を忘れてはいけないのだと思います。人々が安心し、豊かな生活を享受できる社会を自然環境と調和させながら実現し維持する、そのために引き続き我々教員は自分自身をアップデートさせながら教育・研究に取り組んでいきたいと考えています。

最後に、教員の異動に関してご報告します。令和6年3月に河崎弥生教授が都市環境創成コース木質材料科学分野（寄付講座）に着任されました。竹下祐二先生が令和5年度末をもって定年退職されました。珠玖隆行准教授が新年度から東京都市大学建築都市デザイン学部都市工学科教授として転出されました。新任教員の着任はありませんでした。



令和6年度 岡山大学工学部工学科環境・社会基盤系 新入生 令和6年4月2日

情報・電気・数理データサイエンス系の近況報告

情報・電気・数理データサイエンス系・系長
佐々木 徹



同窓生並びに旧教職員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。系を代表して情報・電気・数理データサイエンス系の近況をご報告申し上げます。

新工学部が2021年4月にスタートし、今年度4年目を迎え、最初の学生が4年生となり特別研究に着手する年となりました。新工学部の4年間の教育課程が完了する事になり、更にTarget 2025をひかえ、今後のカリキュラムなどを検討しなくてはならない時期でもあります。

昨年からの教員の異動は次の通りです。2024年1月に五百旗頭健吾准教授、2024年4月に明石卓也教授、岡部孝弘教授、稲吉

弘樹助教、中川博之教授、深谷優梨助教、松田裕貴講師が着任されました。また、2024年4月にWANG JIN先生、侯亜飛先生、原直先生が准教授に昇任されました。一方、2023年5月から2024年3月までに、諸岡健一教授、高橋明子准教授、樽谷優弥助教が退職されました。

情報・電気・数理データサイエンス系の4つのコースのうち、情報工学コース、ネットワーク工学コース、エネルギー・エレクトロニクスコースが工学部電気通信系学科と情報系学科を母体とし、数理データサイエンスコースは環境理工学部環境数理学科を母体としています。環境理工学部についてはあまり馴染みがないと思いますので、今回は数理データサイエンスコースを簡単に紹介をさせていただきたいと思っています。

環境数理学科は旧教養部の数学教室と統計学教室を母体としています。環境理工学部に移行後は「環境」数理学科となりましたので、環境にかかわる必要が出てきました。そこで、数学、統計学、計算機を三本柱とし、環境問題を含む応用を視野に教育研究を行なう事になりました。数学も統計学も応用範囲が広いので、感染症伝播、河川や湖沼の水流解析、生態学、空間統計学など、環境数理学科の名にふさわしい方向にシフトしていく事が出来ました。新工学部に移行してからも、環境数理学科の時の経験を基に数理モデルや統計解析などの教育研究を行なうとともに、データ駆動科学計算、位相データ解析、機会



工学部環境理工棟（左）と数理データサイエンスコースリフレッシュコーナー（右）

学習などの分野を補強し、数理データサイエンスコースの名にふさわしい教育研究を展開する努力をしています。数理データサイエンスコースの研究室は主に工学部環境理工棟（写真左）にあります。数学も統計学も書籍を通じて学ぶのが基本ですので、学生のリフレッシュコーナー（写真右）

には、学生に有益と思われる書籍が多数あります。

情報・電気・数理データサイエンス系としての4年目が始動しましたが、皆様には引き続きご支援、ご鞭撻を賜りたく引き続きよろしくお願い致します。

化学・生命系の近況報告

化学・生命系・系長 早川 聡



令和6年度の系長を拝命しました早川聡です。令和3年(2021年)4月の工学部の改組により、工学部化学生命系学科(合成化学コース、材料・プロセスコース、生命工学コース)は、環境理工学部環境物質工学科と統合され、工学部工学科化学・生命系(応用化学コース、生命工学コース)へと変わり、今年度で一期生は4年生となり、最初の卒業生を送り出す完成年度を迎えました。

昨年度からの教員の異動は次の通りです。令和5年(2023年)10月にヘルスシステム統合科学学域に宮本愛助教が着任され、令和6年(2024年)4月に仁科勇太准教授(研究教授)が異分野基礎科学研究所の教授に昇任され、渡邊貴一助教(研究准教授)が環境生命自然科学学域の准教授に昇任されました。さらに、環境生命自然科学学域には鈴木大介教授、福田伸子教授が着任され、ヘルスシステム統合科学学域に高原茉莉助教が着任されました。福田伸子教授は工学部が昭和35年(1960年)4月に設置されてから64年目にして初の女性教授(工学部兼任)です。化学・生命系では女性教員の比率が増加しました。一方、令和6

年(2024年)3月に環境生命自然科学学域の木村邦生教授(環境高分子材料学分野)と高橋勝國助教(無機材料学分野)が退職されました。

新型コロナウイルス感染症の罹患は続いていますが、講義形式は対面形式に戻り、マスクを着用している教員と学生の割合は昨年度よりも減少しました。春の花粉症対策のマスク着用はあります。新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として対人距離の確保を呼びかける「ソーシャルディスタンス」の規制は解除され、工学部の講義室では学生は「ぎゅうぎゅう詰め」に着席しております。化学・生命系の応用化学実験の様子(写真参照)をご覧ください。コロナ禍以前の賑やかで楽しそうな実験風景が戻ってきました。

工学部6号館のトイレは令和5年度に改修され、昭和の時代の和式から洋式の温水洗浄便座付きトイレに変わり、便器の数も増えました。6号館東館の1階にはバリアフリートイレと女子トイレが設置されました。6号館西館の2階と4階に女子トイレ、1階、3階、5階に男子トイレが設置されました。工事期間中は、環境理工学部棟のトイレを使うので移動が不便でしたが、令和6年(2024年)2月末ようやく改修を終え、清潔感が溢れる快適なトイレが設置されました。



工学部6号館東学生実験室での応用化学実験1の実験風景



工学部6号館東館1階のトイレの様子(左側がバリアフリートイレ)

東京大学教授 菅 裕明 氏 (1986年 岡山大学工学部工業化学科卒) 日本学士院賞受賞



菅裕明教授 近影
ウルフ賞授賞式にて

第114回(2024年／令和6年)日本学士院賞が東京大学教授 菅裕明氏に授与されることが決定した。日本学士院賞は、日本の学術賞としては最も権威ある賞とされており、日本学士院が学術上特に優れた論文、著書、その他研究業績に対する受賞事業を行っている。今回の受賞は、同氏の「特殊ペプチド創薬の開拓への貢献」によるものである。

菅氏は岡山市出身、1982年県立岡山芳泉高校卒業後、岡山大学工学部に入学、1986年同学部工業化学科卒業、同大学大学院自然科学研究科に進学、1989年修士課程修了後渡米、マサチューセッツ工科大学大学院(化学科)でPh. D.を取得した。その後マサチューセッツ総合病院(分子生物学科)博士研究員、ニューヨーク州立大学助教授、准教授を経て、2003年から東京大学先端科学技術研究センター准教授、2005年教授、2012年からは同大学大学院理学系研究科教授を務め現在に至っている。

菅氏の岡山大学での卒業論文・修士論文研究は鳥居滋教授の研究室で行われた。当時の鳥居研究室は、月月火水木金金、深夜12時を超えても明かりが煌々と照っている非常にタフな研究室であったが、配属される学生たちの多くは予め覚悟を決めてくるので、猛烈なハードワークの中でも、互いに切磋琢磨しながら、研究に、春夏秋冬のエキスカッションに、スポーツ大会等々に、青春の日々を大いに満喫した。菅氏は与えられた課題を黙々とこなすタイプではなく、周りの研究にも興味を持ち、いつもマイペースで、時に研究室にギターを持ち込んで演奏することもあり、なにか型破りな可能性を感じる学生であった。因みに、現在も教授室にはギターが飾られていると聞いている。また、同氏は修士課

程在学中に、1年間スイス・ローザンヌ大学に留学、世界へ目を向け、世界に活躍の場を広げる一つのきっかけになったと思われる。

菅氏の研究は、人工リボザイム、分子進化、遺伝子暗号改変、細菌クオラムセンシング等々有機生物学、生物有機化学の新領域を開拓・展開している。それらの成果を基に2006年東京大学発バイオベンチャーとしてペプチドリーム株式会社の創設、2015年には東証一部上場、今日、「特殊ペプチド創薬」に向けて世界各国の大手製薬企業と対等の共同研究を展開している。

菅氏は日本学術会議会員、内閣府総合科学技術・イノベーション会議委員、日本化学会会長などの要職を務められるとともに、2018年から岡山大学のエクゼクティブアドバイザーに就任、母校岡山大学に熱い思いを寄せられている。岡山大学大学院の学生への奨学金の創設、工学部新講義棟の建設、工学部同窓会活動等への貴重な援助を戴いていると聞いている。

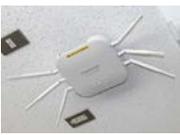


上：2020年プレローグメダル
下：2023年ウルフ賞

菅氏の輝かしい業績にたいして国内外の多くの賞が授与されている。2011年日本学術会議会長賞、2015年文部科学大臣表彰科学技術賞、2016年読売テクノフォーラム ゴールドメダル、2016年マックス・バークマンメダル、2016年日本イノベーター大賞特別賞、2017年名古屋メダル(シルバー)、2020年プレロー

グメダル(チューリッヒ工科大学)、2023年にはウルフ賞化学部門を受賞している。ウルフ賞はその受賞者から多くのノーベル賞受賞者を輩出していることで知られており、今日、菅氏が世界で最も注目を集めている科学者の一人であることは間違いない。今後ともくれぐれも健康に留意され、益々活躍されることを心より願っている。

(文責 工化S43年卒 田中秀雄)

機械システム系 同窓会	環境・社会基盤系 都市環境創成コース同窓会														
<p style="text-align: center;">機械システム系</p> <p>役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外幹事 尾崎 公一 (S63卒), 松岡 大樹 (H22卒) ・学外幹事 高橋 智 (H元卒, 機械工学コース担当) 山口 大介 (H21卒, ロボティクス・知能システムコース担当) <p>活動概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 両コース共同の新入生に対する入会案内 2. 現役学生への支援 機械工学コース: 「機械系エンジニアの歩き方」の後援 オンライン会議用の備品購入 など ロボティクス・知能システムコース: 学習環境, 就活環境向上のための寄贈 	<p style="text-align: center;">環会</p> <p>工学部土木工学科 環境理工学部環境デザイン工学科 工学部環境・社会基盤系 都市環境創成コース</p> <p style="text-align: right;">} 系列の同窓会</p> <p>役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長 河田孝志 (土木1期) ・副会長 三村富士男 (土木2期), 竹下祐二 (土木4期) ・監事 大田 昇 (土木17期), 安木清史 (土木19期) <p>主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業写真および入学写真の撮影と配布【3月, 4月】 ・ホームカミングデイ「卒業生を囲む会」の開催【10月】 ・環会名簿(隔年)、会報の発行【12月】 ・現役学生への支援(現場見学会、就職説明会、学生会員活動助成金助成等)【随時】 														
<p style="text-align: center;">「機械系エンジニアの歩き方」の後援 (機械工学コース)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械系卒業生が集い, 在学生への助言も含めて企業を紹介 ・交流会の後, 機械系同窓会主催の懇親会を行い, 交流を促進 ・卒業生と在学生をつなぎ, 両者の役に立てる企画 <p>エンジニアの歩き方参加企業数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>企業数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016年度</td> <td>94社</td> </tr> <tr> <td>2017年度</td> <td>99社</td> </tr> <tr> <td>2018年度</td> <td>98社</td> </tr> <tr> <td>2019年度</td> <td>108社</td> </tr> <tr> <td>2021年度</td> <td>80社(オンライン)</td> </tr> <tr> <td>2022年度</td> <td>64社</td> </tr> </tbody> </table> <p>2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止</p> <p>和やかな雰囲気 の交流会</p>  <p>カメラ</p>  <p>スピーカー フォン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン会議用の備品購入 Web会議用のビデオカメラやスピーカーフォン等を購入し, 機械工学コースの卒業生・修論発表で活用(2021年度) HDMI分配器等を購入(2022年度) 	年度	企業数	2016年度	94社	2017年度	99社	2018年度	98社	2019年度	108社	2021年度	80社(オンライン)	2022年度	64社	<p>1. 行事報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームカミングデイ「卒業生を囲む会」(2023年10月21日) 教育学部5202講義室において、「組織改編(学部・大学院)について」と「研究活動紹介」(各研究室によるフラッシュトーク+ポスターセッション)を実施した。学部2・3年生を中心に、研究所所属学生、卒業生、教職員あわせて約150名が参加した。  <p>フラッシュトーク</p>  <p>ポスターセッション</p>
年度	企業数														
2016年度	94社														
2017年度	99社														
2018年度	98社														
2019年度	108社														
2021年度	80社(オンライン)														
2022年度	64社														
<p style="text-align: center;">学習環境, 就活環境向上のための寄贈 (ロボティクス・知能システムコース)</p>  <p>液晶プロジェクター, スクリーン</p>  <p>掲示板</p>  <p>無線AP</p> <p>現役学生のための寄贈活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●超短焦点型 液晶プロジェクターとスクリーンを2式寄贈(2013年) ●就職情報掲示のための掲示板(2015, 2018年) ●無線アクセスポイント(AP)の設置(2019年) 	<p>2. 卒業写真および入学写真の撮影と配布</p>  														

環境・社会基盤系
環境マネジメントコース同窓会

拓水会(環境マネジメントコース)

役員

- ・会長 小橋 浩二 (S54)
- ・副会長 細川 信佳 (S61), 原 聡 (H12)

「拓水会」は旧岡山農業専門学校(昭和24年卒)から続く、岡山大学 環境理工学部 環境管理工学科、工学部 環境・社会基盤系 環境マネジメントコース、並びに農学部生産システム工学分野の同窓会です。

1. 学外研修・ホームカミングデイの後援

- ・在学生が授業内で行う「学外研修」の後援、補助を行っています。



2023.5.11 槇谷ダムにて



- ・学科と「ホームカミングデイ」を共催しています。



2. 「拓水会誌」の発行

- ・年に一度、同窓会誌「拓水会誌」の発行を行っています。

拓水会誌第58号2022



- ☆ 巻頭言 ☆ インターンシップ報告
- ☆ 新任挨拶 ☆ 近況
- ☆ 報告 ☆ 事業報告
- ☆ 寄稿 ☆ 研究室だより
- ☆ 10年十色 ☆ 編集後記



<その他の活動>

- 総会・新年会
- 新入生記念品贈呈
- 卒業生記念品贈呈
- 教育貢献部会 評価委員会

情報・電気・数理データサイエンス系
情報同窓会

情報工学コース同窓会活動報告

情報工学コース 渡邊誠也

役員

- 幹事 (学外) 池本文典 (内山工業 (株), H3卒)
- 幹事 (学内) 渡邊誠也

活動概要

1. 情報工学コース (情報系学科) ホームカミングデイの活動報告
2. 情報工学コース同窓会 (情報工学会) の活動



1. 情報工学コース (情報系学科) ホームカミングデイの活動報告

- (A) 研究室訪問: 教員と情報系学科OBとの交流の場
- (B) 研究室紹介イベント: ポスター形式で研究室の活動内容を紹介
- (C) 「OB, 現役生, 教員の交流イベント」
 - (1) 情報工学コース長 (情報系学科長) による学科の近況報告
 - (2) 「情報工学先進コースの紹介」 (2023年度)
 - (3) 情報工学科OBによる演会



(写真は2022年度のイベント)

2. 情報工学コース同窓会 (情報工学会) の活動

情報工学コース (情報系学科) のトピック:

情報工学コース3年生の授業の一貫で学外施設の見学会を支援

- スーパーコンピュータ「富岳」(理化学研究所 計算科学研究センター@神戸) 見学 (2023年9月26日)
- 2022年度は新型コロナウイルス感染症対策のため未実施



工学部学科同窓会活動報告

情報・電気・数理データサイエンス系 電気・通信同窓会

電気・通信同窓会活動報告

活動概要

1. 同窓会等開催補助
2. 行事開催

1. 同窓会等開催補助

年度	件数
平成28年度	9件
平成29年度	4件
平成30年度	6件
令和元年度	6件
令和5年度	1件(予定)



情報・電気・数理データサイエンス系 数理データサイエンスコース同窓会

数理データサイエンスコース同窓会

役員

- ・ 会長(コース長): 坂本 亘
- ・ 幹事: 梶原 毅
石岡文生 (工学部同窓会学内幹事, H14卒※)
田村俊輔 (H29卒※)

※環境理工学部 環境数理学科

主な活動

- ・ 環境数理学科・数理DSコース ホームカミングデイ (10月)
- ・ コース新2年生の写真撮影と配布 (4月)

2. 開催行事

卒業生OB・OG とのキャリア形成のための意見交換会

例年、10月のホームカミングデイに合せて学内で開催

- ・ 就職活動が本格化する前に学内で開催
- ・ 電気通信系学科卒業生が来学し、在学生へアドバイス
- ・ 内容は卒業生による講演と質疑応答
- ・ 目的

- 業務内容や研修について学生に具体的な情報を提供
- 先輩後輩による本音も含む情報交換

実績(2017年以降)

年度	卒業生数	参加者
2017	7名	21名
2018	8名	34名
2019	7名	37名
2020	コロナ禍のために開催せず	
2021		
2022	6名	22名
2023	6名	



活動報告1

2022年度 ホームカミングデイ

2022年度ホームカミングデイ 環境数理学科・数理データサイエンスコース
受付時間: 環境理工学部 2階201講義室
※人数が多い場合はオンライン配信での開催となります。ご了承ください。

受付開始: 12時30分～

1. 卒業生講演会 (13:00~14:00)

2023年度に環境理工学部環境数理学科を卒業、2022年度に工学部環境数理学科 研究科を修了された、現在はソフトバンク株式会社で「機械学習エンジニア」として勤務されている 高橋直志氏をお招きし、ご自身の大学時代のエピソードと現在の仕事内容・データサイエンスとの関わり、また、学生時代にしっかりと取り組むべき事項の話を中心にご講演いただきます。

2. キャリア支援セミナー ～ 社会人の働き方 (14:00~16:00)

キャリア支援セミナー (社会人の働き方) ではSocial Brain Teamという「働く場所」についての最新知見を共有し、今後の学生生活やキャリア形成に役立つ「社会人の働き方」についての情報を提供することができます。

なお、本セミナーに参加するSocial Brain Team 専任講師の方は、可能な限り2023年度にネットワークし、10月30日まで「面接対応の士」登録し、事前にIDとパスワードを入力し、10月の面接機会を最大限に活用できるようにしてください (10月30日以降に申し込み人はセミナーの開催のためできません)

卒業生交流会

就職活動が開始する直前の2月に学科と共催で開催、同窓会は茶菓子を提供

- ・ 電気通信系学科の卒業生が来学し、所属各企業を紹介
- ・ 2019年から従来行っていた就活キックオフを改編し、丸1日かけて開催
- ・ ブースでの各企業の紹介、及び、個別説明会

	ブース参加企業	個別説明会参加企業	参加学生
2020	60	37	約100名
2021	コロナ禍のために開催せず		
2022	開催せず		
2023	43	-	約100名



ブースでの企業紹介(2020年)



個別説明会(2020年)

活動報告2

コース新2年生の写真撮影と配布

2023年度 ホームカミングデイ

- ・ 卒業生講演会 と 懇談会

化学・生命系 同窓会

化学生命系同窓会活動報告

役員

- ・共同代表 西田 良祐(S58卒、化学系)
井口 勉(S46卒、生命系)
- ・報告者 内田 哲也(H4卒、化学系) 幹事(学内)
二見淳一郎(H6卒、生命系) 幹事(学内)
西本俊介(H13卒、環境物質) 幹事(学内)

活動概要

卒業記念集合写真の撮影と配布を実施
卒業生によるキャリア支援セミナーの学科との共催

2. 卒業記念集合写真の撮影と配布 (H21年度開始)

- ・卒業記念集合写真(学生と職員全員)の撮影と配布

令和4年度卒業生



化学生命系学科の卒業生の一例

令和4年度修了生



自然科学研究科 応用化学専攻の修了生
ヘルスシステム統合科学研究科
バイオ・創薬部門 の修了生
の一例

- ・その他:卒業生連絡先の集計と管理

卒業生によるキャリア支援セミナーの共催

2023年度第1入學ホームカミングデー

系列行事案内

化学・生命系

日工業化学科・日合成化学科・日精密応用化学科・日物質応用化学科
日生物応用1学科・日生体機能応用1学科・日生物機能1学科
日環境物質工学科

開催日時:2023年10月21日(土) 10:00~15:00

開催場所:卒業生によるキャリア支援セミナー 工学部1号館 大講義室
学生と卒業生との懇談会 1号館1号館A218室
研究室公開 二学部1号館南側、6号館、環境生工棟

- イベントの内容(化学・生命系同窓会との共催) ●

10:00~12:00 卒業生によるキャリア支援セミナー

(工学部1号館3階 大講義室)

企業等の第一線で活躍中の卒業生より、主に化学・生命系3年生、大学院生を対象として、キャリア支援のための講演をしていただきます。来年度以降、就職活動を控えている皆さんには、将来の人生設計をすすめるうえで参考になるかと思います。

「武器を持つこと～サウジアラビア王国での活動を経て得たもの～」

井野川 人姿 氏(崇城大学 工学部 准教授)

<2010年度修士卒・鳥取県産科化学(三宅)研究室

(現 新潟県産科化学(島田)研究室)>

「食品メーカーの生産技術とは?～働く魅力と難しさ～」

田中 泰帆 氏(株式会社清野グループ 副社長)

<2022年度修士卒・種子・流体プロセス工学(後藤)研究室>

「研究者として働くとは～学位取得後のキャリアについて～」

小川 紗也香 氏(アステラス製薬(株) つくば研究センター 研究員)

<2018年度博士卒・細胞機能設計学(徳光)研究室>

12:00~13:00 卒業生との懇談会(二学部1号館2階 A218室)

職場紹介



株式会社東ソー分析センター
四日市事業部 解析グループ
物性チームリーダー

津川 直矢

自然科学研究科物質生命工学専攻修了
(12年3月卒)

株式会社東ソー分析センターの津川と申します。弊社はその名前の通り、分析業を生業としており、皆様の研究開発・生産活動に対し、高品位の分析サービスが提供できるよう、日々研鑽に努めております。今日は、弊社の業務内容や最新の分析トピックスを御紹介させていただきます。

◆会社概要

株式会社東ソー分析センターは、総合化学メーカーである東ソー株式会社のグループ企業として分析・検査部門が独立し、2000年4月に発足しました。分析・検査というと、「品質管理」をイメージする方が多いかと思いますが、私が所属する解析グループでは、企業や大学・研究機関の皆様からの「受託分析業務」を担当しております。

◆業務紹介

私は2012年入社から3年間、電池材料やセラミックスなどの「無機材料」の構造解析業務を担当しました。無機材料の構造解析では、X線を用いた分析や顕微鏡を用いた分析が主戦場となります。その中でも、透過型電子顕微鏡（TEM）は1億円を超える大型機器であり、分析センターならではの装置ではないかと思います。TEMでは電子線を試料に透過させることで、サブnmの原子配列を観察することができます。私が大学時代に一番使用した装置であり、担当教官である内田先生に丁寧に教えて頂いた思い出の装置でもあります。図1に私が撮影した多孔質材料（ゼオライト）のTEM観察結果を示します。きれいに細孔が観察出来ていると思いませんか？

その後、2016年から現在に至るまで「高分子材料」の分析に従事し、規格物性試験や粘弾性測定など幅広い装置を担当しております。

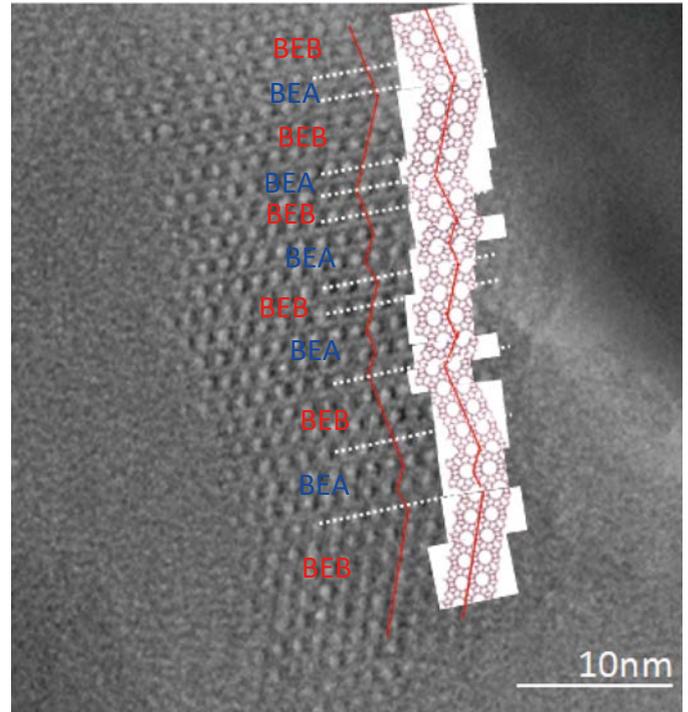


図1 TEM観察結果 試料：ゼオライト
(2種類の細孔の積層構造 (BEA, BEB) を観測)

◆最新の分析トピックス

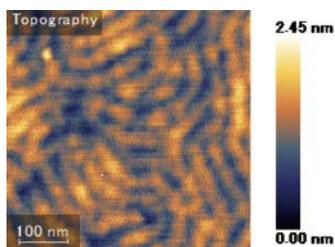
ここからは、東ソー分析センターにて導入した最新設備に関してご紹介させていただきます。皆様の研究開発の一助となれば幸いです。

1) AFM-IR

赤外分光法（IR）は試料を透過、反射した赤外光の吸収スペクトルを計測することで、試料の構造解析を行うことが出来る分析手法です。第一線で研究されている皆様なら一度は使用したことがある装置ではないかと思います。通常、汎用的なIRは最小1 μ m程度の空間分解能でしか測定を行うことが出来ません。このことから、微小な構造（ex.相分離構造）を持つ材料への適用は困難でした。

このことから、弊社では最小10nmの空間分解能でIR測定が可能なAFM-IRと呼ばれる装置を新規導入致しました。図2にAFM-IRにより測定したポリスチレン/ポリメタクリル酸メチル（PS-b-PMMA）共重合体のミクロ相分離構造を示します。PSとPMMAに特有のIR吸収を用いてケミカルイメージングを行うことで、数10nmレベルの組成分布を可視化することが出来ます。

<AFM形状像>



<ケミカルイメージング>

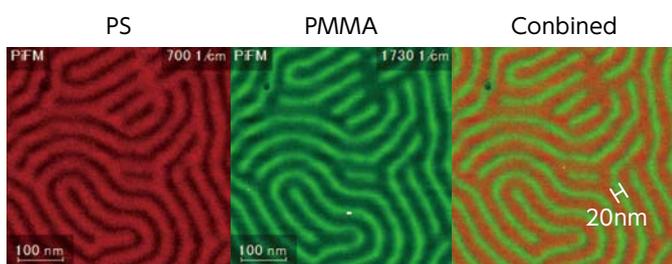


図2 AFM-IR観察結果_試料:PS-b-PMMA共重合体
(上段:AFM形状像、下段:ケミカルイメージング像)

◆受託分析会社で働くメリット

専門的で堅苦しい話ばかりさせて頂きましたが、ここからは東ソー分析センターで働くメリットについてお話しさせて頂きます。弊社で働くメリットは何と言ってもほぼ「研究職」に配属される点です。就職したものの「研究職」に就けないというミスマッチが生まれる心配はありません！また、社内にある最新の分析機器はいつでも使い放題です。良い意味で、大学のような研究活動に没頭できる環境が整っています。実際に、研究で成果を出して国際学会等で発表される方もおられます（私もシンガポールの国際学会に参加しました（図4））。社会人になっても第一線で研究を行いたい方は就職先の一候補としてご考慮頂けますと幸いです（弊社には岡大OBが2名しかいません。派閥拡大にご協力ください！）。



図4 国際学会（シンガポール）の思い出

◆最後に

弊社では今回ご紹介させて頂いた以外にも各種分析機器を取り揃えております。皆様の研究活動を行う上で、お困りのことが御座いましたら、お気軽に弊社HPよりお問い合わせ頂けますと幸いです。何卒、よろしくお願い申し上げます。

2) EMS粘度計

EMS粘度計は溶液粘度計の一種で、試料溶液に入れた金属球に磁場を加えて回転させ、その回転速度から粘度を評価します（図3）。



図3 EMS粘度計の測定イメージ

最少300 μ lの試料量で粘度を評価できるため、貴重な試料の粘度評価に有用です。温度可能な範囲は0～200 $^{\circ}$ Cです。また、密閉式のセルを使用しているため、沸点近傍でも溶媒の気化の影響を抑えながら粘度を測定することができます。



株式会社大林組

旗谷 守将

自然科学研究科電子情報システム工学専攻修了
(18年3月卒)

私は岡山大学 大学院自然科学研究科 電子情報システム工学専攻を修了し、総合建設会社の株式会社大林組（以下、大林組）に就職しました。建設会社への就職はあまりイメージがない方も多くおられると思いますので、大林組について、そしてその業務について紹介したいと思います。

大林組は、生活基盤であるインフラや都市の象徴となる建造物、さらには都市全体の未来を創造する都市開発を手掛けるゼネコンです。ゼネコンは一般に土木建築一式工事を請け負う大手総合建設会社のことを指し、大林組はその中でも特に規模の大きいスーパーゼネコンの一角です。実際に施工する際には鉄筋工事や左官工事など専門工事を請け負う協力会社と連携しプロジェクトを指揮する役割を担います。売上高・技術力は業界トップクラス、北米・東南アジアを中心とした海外へも積極的に展開していることに加え、建設分野以外でも下記のさまざまな事業を展開しています。

1. 開発事業：不動産開発や都市開発など、新たなプロジェクトの企画から建設、事業化までをワンストップで提案します。
2. グリーンエネルギー事業：太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギー事業および水素の製造から供給までサプライチェーン構築に取り組んでいます。
3. 新領域ビジネス：建設事業で培った技術を活用し、気候変動に左右されない食糧生産システム事業の

検討や、地球と宇宙をつなぐ約10万kmのタワー建設を構想した宇宙エレベーター建設構想といった建設業界の枠にとらわれず、ゼネコンの枠を超えた新たなステージへの挑戦も行っています。

大林組は建設分野以外でもこれらの事業分野において、技術力やノウハウを活かし、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを行っています。

様々な事業を展開する大林組において、電気系卒の学生は活躍できるフィールドが多種（情報・設備・エンジニアリング・機電職）になります。この場では私が所属する設備職についてご紹介いたします。

まず初めに設備職は、建物に付随して設置される建築設備（空調・電気・給排水・ガス・消防・昇降機）を担当し、建築物の機能や快適性を確保するために必要な様々な設備について、設計・施工管理・見積を行います。

その中で私は現在、設計業務を担当しておりますが、設備設計とは、建築物における設備を計画・設計する仕事です。建築設計の一環として、建物内部に必要な設備を適切に配置し、機能や効率性を最大化する役割を担います。定期的に施主と打合せを行いながら建物の用途や要件に基づいて、設備の配置や仕様を計画した後、具体的な機器や配管の配置、配線や制御システムの設計などを行い、建築設計図に反映させます。設計の過程では、設備の選定や見積り、コスト効率の評価などを行いながら、費用や予算の管理を行い、プロジェクトの予算内で設計を進めます。

また施主だけではなく諸官庁とも協議を行い、建築基準法や消防法といった関連する法規制を遵守しながらプロジェクトを進めていきます。

設備設計者は、建物の快適性、効率性、安全性に貢献する重要な役割を果たしています。設備設計には、関連する法規制や規格、技術の知識だけではなく、プロジェ

クトにかかわる方々とのコミュニケーション能力やプロジェクト管理のスキルも重要です。プロジェクトが大きくなるほど各所との調整が増え大変ですが、多くの人と一緒にモノづくりができるやりがいはその分大きくなり、建物が出来上がったときの達成感は言葉では表現できないほどになりました。

建設業はビルやマンション、学校、駅、工場、スタジアムに至るまで時代や文化を象徴する建物から道路や橋梁、地下鉄、ダムなど人々が暮らしていくうえで必要不可欠な社会基盤を作っています。大変規模の大きなモノづくりを行うため、やりがいは非常に大きいと感じております。

当社ではジョブローテーション制度があり、入社してから約3年間で設計・施工・見積の3部門を経験し、幅広い知識・技術・経験を身に付け、適性に合った業務へと移行していく制度を設けてあり、建築を専攻していない学生に対しても入社しやすい環境が設けられていました。

本寄稿を読んでいたいただいた学生の皆様には当社のような建設業界でも活躍できるフィールドがあることを認識いただき、先入観なく幅広い業界に目を向け就職活動に臨んでいただければ幸いです。

2023年度は、コロナから脱して久しぶりに対面での活動が再開されました。特にリタイア組が世代を超えて交流できる場であり、また、若い世代へと受け継ぐことのできる会にしていきたいと願っています。皆様の積極的なご参加とご支援をよろしくお願い申し上げます。

1. 親睦会等活動報告

- ① 親睦会 千足古墳群ハイキング (2023.6.10)
吉備の千足古墳(総社市)は、2016年以來の発掘調査で新しい発見が相次いでおり、当時を偲ばせる埴輪列が配置され、石室もきれいに復元されました。造山古墳の他周辺の古墳を巡りました。参加者は7名でした。
- ② 納涼ランチ会 (2023.8.3) ピュアリティまきび岡山。
久しぶりの対面での懇親が出来ました。参加者は14名でした。
- ③ 岡山支部総会・講演会・懇親会 (2023.9.16)
ピュアリティまきび岡山にて4年ぶりに開催されました。参加者は、工学部長、講演者を含めて18名でした。

○講演会：

- (1)「高齢化社会の医療経済の課題解決に挑む生物工学」
二見淳一郎教授 (H6年 生体機能工学科卒、H11年 大学院自然科学研究科(博)修了、工学部工学科 化学生命系 蛋白質医用工学)
- (2)「ポリエチレンフィルムを用いた人工網膜および高分子の溶液結晶化を利用した高性能ナノ材料の開発」
内田哲也教授 (H4年 精密応用化学科卒、H6年 大学院自然科学研究科(修)修了、工学部工学科 化学生命系、高分子材料化学)



岡山支部総会
(2023.9.16)



岡山支部総会・懇親会 (2023.9.16)

○懇親会：今回は、コロナ禍で対面形式の懇親会を開催できなかった過去4年に遡って、還暦、古希、喜寿、傘寿を迎えられた参加者の方々に、お祝いの品(岡大ブランド酒「おお 岡大」)を贈呈し、皆さんでお祝いしました。

- ④ 新年会 (2024.1.18)
食事をしながら、順番に自己紹介をかねて最近の活動について和やかに歓談を行いました。参加者は14名でした。
- ⑤ 親睦会 岩屋寺周辺ハイキング (2024.4.4)
平安時代末期に山岳仏教の聖地であった岩屋寺周辺(総社市)を巡りました。「岩屋の大桜(山桜)」やタムシバが満開で気持ちの良いハイキングとなりました。参加者は6名でした。

2. 岡山支部メールマガジンの発行

岡山支部メールマガジン87号(2023.7)、88号(2023.10)、89号(2024.1)、90号(2024.4)を発行しました。90号では、堂田周治郎氏(S49年生産機械工学専攻修了)より、「膝人工関節手術を受けて」の寄稿を頂きました。各号は、支部HPにて閲覧できます。配信希望の方は支部までメールで連絡ください。

3. 「岡山大学実践コミュニケーション論」への講師派遣 同コミュニケーション論への講師を岡山支部から2名派遣し支援しています。

HP：https://www.e.okayama-u.ac.jp/practice_communication/

4. 岡山支部連絡先

支部 HP <https://okayama-u.sakura.ne.jp/wp/>
(会員専用欄 パスワード okadaieng)
支部メール okayamauniveng@gmail.com



新年会 (2024.1.18)



岩屋寺ハイキング (2024.4.4)

工学部同窓会関西支部活動報告

関西支部 支部長 真鍋 健次 (S46年、電気工学科6期卒)

1.1. 令和5年(2023年)度工学部同窓会関西支部総会

- 開催日時・場所
令和5年(2023年)11月19日(日) 12:00~16:00
大阪ガーデンパレス(〒532-0004大阪市淀川区西宮原1-3-35)
- 参加者(敬称略、順不同)
那須 保友、難波 徳郎、石原 好之、宮崎 成次、
難波 義久、大森 勝、板谷 康夫、菅原 久勝、石井 泰三、
村上 有二、真鍋 健次、神谷 昇、本郷 徹、藤本 仁士、
船曳 繁之、窪田 明、徳丸 裕晃、馬場 正之、遊塚 茂、
西本 裕明、宮路 貴浩 以上、21名
- 総会概要

12時より岡山大学 Alumni(全学同窓会)関西支部第3回総会に全員参加して、総会終了後に場所を移動して、14時30分より那須学長の発声で、工学部同窓会関西支部の総会を開始しました。

那須学長の乾杯で、総会をスタートし、出席者から順次和やかな雰囲気、近況報告をした。

最後に記念撮影をして、散会しました。



1.2. 令和5年度新春懇親会

令和6年2月2日に、大阪駅前の「がんこ寿司 大阪本店」にて、石原好之先生と15人の同窓生が集まり、岡山大学工学部同窓会関西支部の新春懇親会を開催しました。

11月19日の岡山大学 Alumni 関西支部にも参加の方が多く、和やかで、楽しい同窓会となりました。



石原先生の乾杯で、宴をスタートし、4月1日に幹事会を開催することを確認して、14時30分にお開きとしました。

この日は、能登半島地震の地震災害義援金の募集をし、12000円が集まりました。同窓会から、基金受付窓口に寄付しました。

10月には、岡山大学 Alumni 関西支部が大阪市内で開催される予定です。

(文責: 大森 勝: 昭和42年電気工学科卒)

工学部同窓会関東支部活動報告

関東支部 支部長 笹川廣太郎 (S50年、生産機械工学科8期生)

岡大・工学部OBの皆様、関東支部の近況をご報告します。東京の桜もすでに青葉となり温かい毎日が続いています。写真は昨年(2023年7月)の『岡山大学全学同窓会(Alumni)・東京支部総会(兼)工学部同窓会・関東支部総会』における工学部グループのテーブルです。



那須保友学長、難波徳郎工学部長をご招待し、現役の学部生や、バン格拉デッシュから来日し岡大工学部を卒業され埼玉県在住の方もあわせて約100名(工学部系で21名)が参加していただきました。その中で那須学長から『文部科学省の大型支援事業として岡山大学が選定され世界に誇れる研究大学としての運営方針』についてお話があり、難波工学部長からは中四国で一番規模の大きな新生工学部としての研究活動などのご紹介がありました。後半は参加者それぞれの近況など情報交換で盛り

上がりました。今年(2024年)も7月21日(日)に、東京都港区表参道で開催を予定しています。昨年までは従来の往復葉書による案内と電子メールによる案内を併用いたしましたが、今年からは予算節約のため、電子メールによる案内に一本化する予定です。ぜひ若い世代の人々に多く参加を募り、多岐にわたる工学関連の人脈作りに活用できる集まりを目指したい。

さて、工学部同窓会(関東支部)も今年度から幹事が交代いたします。新幹事の顔ぶれは次の通りです。

- 〈支部長〉河田孝志(1980年 大学院工学研究科 土木工学専攻)
〈副支部長〉岸本照之(1986年 電子工学科 卒業)
〈幹事〉堂地 博(1995年 大学院工学研究科 情報工学専攻)

引き続き、どうぞよろしく願いいたします。OBの皆様には卒業後の連絡メールアドレスをしっかりと登録され有効活用していただき活動していただければ幸いです。皆様のさらなるご発展を祈願いたします。

2024年4月23日 関東支部 笹川廣太郎



学生や職員の才能を 引き出す3ステップ

学生たちが自ら主体的に行動する方法を知りたい
研究室や職場でのチーム運営をより円滑に、生産性の高いものにしたい
学生の適性に合った指導や支援の方法を知りたい

所属：起業コンサルタント
生体機能応用工学科
平成10年卒 澤田ひろみ
(旧姓：石井宏美)

そんな方に、私が現在ビジネスで活用して、大きな成果が出ている方法をお届けしたいと思います。最後には研究室での実践や無料診断ツールをご紹介します。OBとしてあなたのお役に立てたら幸いです。

はじめまして。起業コンサルタント澤田ひろみです。
現在、私は起業コンサルタントとして、オンラインビジネスのつくり方講座「満席ビジネス®実践塾」を主宰、さらに誕生学講師として、「いのちの話」を幼稚園児から高校生にお届けしています。この授業は、11年間で104校、8670名に開催しました。

2022年ブーケットで開催されたビジネスコンテストでは、グランプリ受賞。電子書籍「オンラインビジネスの教科書」Amazon10部門ベストセラー獲得。「誇り高く生きる人を増やす」をミッションとし「うまれてきてよかったと思える世界の実現」に向けて活動しています。

おかげさまで、ビジネス講座ではクライアント全員が目標を達成し、満足度100%いただいています。

ですが、実は最初からクライアントに行動変容を促すことができたわけではありません。同じように教えても、成果を出せる人、出せない人がいる。自ら行動し目標達成するには、どんな働きかけをしていったらいいのか、5年間試行錯誤をしてきました。そんな中から導き出した方法をお伝えしたいと思います。

最初に、あなたに質問させてください。
「あなたの才能（強み）は何ですか？」

私の強みは、「相手の気持ちが手に取るようにわかること。改善していけること。継続力があること等…」です。これらは私にとって当たり前のようにできることなので、かつての私は、みんなも同じようにできるものだと思っていました。つまり、自分の強みだとは気づいていなかったのです。

才能（強み）とは、呼吸するように簡単にできること。例えば、アイデアを次々に思いつくのが簡単にできる人もいれば、人とコミュニケーションすることが得意な人もいます。改善点を見つけて、素早く修正することが得意な人もいます。

このように、すべての人が才能もっています。

それでは、もう1つ質問です。
「あなたの苦手なこと（弱み）は何ですか？」

この答えは、前の質問より簡単に答えが出せるかもしれませんがね。私の場合は「新しいアイデアが出てこない。異業種交流会など多くの人と関わるのが苦手。決断するまで時間がかかる等……」です。

かつての私は、苦手なことを改善しようと努力してきました。ですが、今では苦手なことは得意な人に任せて、より自分の強みを発揮することに時間を使うようにしています。

するとムリすることなく、目標達成ができるようになりました。何より任せた人からも感謝され、win-winな関係となれたのです。

このことから分かるように、私たちには一人ひとり違った強みと弱みがあります。それぞれの強みを活かすことで「楽しく、ラクに」進んでいくことができるのです。

それでは、自分はもちろん、周りも才能（強み）を発揮できるようになるための3つのステップをご紹介します。

- ステップ1：自分と周りの人の強みを知る
- ステップ2：強みの使い方を知る
- ステップ3：強みを使って磨いていく

最初のスタートは強みを知ること。
強みを知るために私は現在、「ウェルスダイナミクス」という才能診断ツールを活用しています。

ウェルスダイナミクスは、最新の脳生理学に於いての原理や、深層心理学の権威であるユングの深層心理学など、西洋の科学的アプローチと基礎とし、東洋の陰陽五行説、易経、春夏秋冬の考え方などを取り入れた全く新しいアプローチのプロファイリングテストです。

現在、ウェルスダイナミクスは、世界24,6527人が診断テストを受け、すでにマイクロソフトやグーグル、IBMなど、名だたるグローバル企業で導入されています。

日本では200社で導入され、自衛隊の広報官（募集担当者）の研修でも正式採用されています。

昨年私は、ウェルスダイナミクス シニアプラクティショナーとなり、ビジネスの現場でフル活用しています。昨年末は、ウェルスダイナミクスの協会でもっとも活躍した人として「テンポ of the year 2023」を受賞しました。

ウェルスダイナミクスでは、自分の強みを活かせるようになっただけではありません。今まで大きな間違いをしていたことに気がつきました。自分がうまくいった方法をクライアントにお伝えしていたのですが、それがクライアント自身の才能を潰していたのです。

私は計画的に一つひとつ課題をクリアしていくことに「確実に前進できている！」と達成感を感じるタイプです。実際、淡々と計画を実践し、様々な目標を達成してきました。

ですから、クライアントと一緒に年間計画を作成し、実行していくスタイルを採用していたのです。そんな中、ウェルスダイナミクスで才能に合わせた進め方があることを知りました。そこでクライアントにこれまでの進め

方についてヒアリングしたのです。

すると、「計画という言葉が出てきただけで、やる気がなくなった」「予定通りに進めなくて苦しかったけど、なんとか頑張った」そんな声が上がってきました。

そこで、計画が苦手な人は、自由に進めることがモチベーションになるという強みを活かすスタイルに変更しました。

「どうなったら最高か、大まかな方向性を一緒に考え、臨機応変に対応していく」という、強みに合わせた指導をしていったところ、一人ひとりが「楽しく、ラクに」目標を達成することができるようになったのです。

「自分を知って、相手を知る」

これはビジネスだけでなく、夫婦間、親子間でもフル活用しています。お互いの才能を認め合い、自分の主観だけで判断することを手放したところ、相手を尊重し、さらに相手の才能に敬意を払えるようになり、その結果、イライラやストレスが減って、人間関係が円滑になりました。

母校で学生向けに「才能発見ワークショップ」開催

5/2(水) 13:00-16:00

才能発見ワークショップ@二見研

自分の強みってどんなもの？

苦手な人とうまく付き合うには？

自分が飽きっぽいのはなぜ？

自分はどんな仕事に向いているのかな？

WEALTH DYNAMICS

**自分の“強み”を知って
ほしい未来を手に入れる！**

世界246,527人が体験、日本200社に取り入れられている
才能診断ツールを使ったワークショップ
大学生対象に初開催！

あなたはどのタイプ？

ダイナモです
DYNAMO

ブレイズです
BLAZE

テンポです
TEMPO

スチールです
STEEL

起業コンサルタント
澤田ひろみ
同大工学部 生体機能応用工学科卒（現：歯白質医用工学研究室）
AMAZON「オンラインビジネスの教科書」ベストセラー獲得
ウェルスダイナミクス資格
【いのちの授業】104校、8760名にお届け

無料タイプ診断はこちら

今年の1月5日に母校の研究室訪問の際に「同窓会報にエッセイを寄稿してみませんか？」と二見先生からお声かけいただきました。

母校に役立つエッセイにしたい。私にできることは何か？と自問し、ウェルスダイナミクスの大学での活用を考えました。そのモニターを学生と教職員対象でしたいと打診したところ、ワークショップ（WS）を二見研で開催させていただけることになりました。

WSでは、自分のタイプから強みを知る（ステップ1）、強みの活かし方を知る（ステップ2）の内容にしました。

18名の参加で、参加者全員から満足、かつ今後に役立つという、アンケート回答をいただきました。

二見先生にインタビューさせていただきました。

Q. 開催の決め手は？

若者に「自信を持って頑張れ、自分に投資しろ」と言っても、保証のない不確定な将来に不安を感じるのは当然。でも自分自身を知り、自己肯定感を高められれば今より頑張れるんじゃないかな？ GW前の学生たちにそんな契機を与えられればと開催を決めました。

Q. 開催してどうでしたか？

私も勇気をいただきました。
学生さんたちには、大学を卒業して幸せになってもらいたいと思っています。

一人ひとり幸せになる方法は違うと思いますが、できれば回り道せずに幸せになるのが一番いいと思うので、今日の話はとても参考になったと思います。
チームを作る時にも、どの人をどうやっていけばいいのかが分かり非常に参考になりました。

全員のタイプをメモしたので、これから学生の個性を尊重した指導に活用させていただきます。(蛋白質医用工学研究室 二見淳一郎教授)

続いて、参加者の声を紹介します。

成功へのアプローチの仕方は人それぞれであることがわかり、憧れていた強みを目指すのではなく、自分の強みを見つけていきたい(4年生)

同じプロフィールでも各要素のバランスが異なる点が印象的だった。他者との共通点や違いを正しく認識できるようになれば、お互いを補完することでよりよいチーム形成ができると感じた。自分や周囲の人を観察し、各々のプロフィールを予測するあるいはその人の属するプロフィールの特性を学んでいきたい。(大学院生)

それぞれの得意・不得意や、声のかけ方でも嬉しいかけ方があることがよく分かりました。学生さんへのほめ方や注意の仕方、実験の指示などの声のかけ方など、工夫できそうだなと思います。社会人、就活生、企業・大学等で指導する立場の人におすすめです。(研究員)

実は現在、息子も岡大生として研究活動をしています。私自身、学びを岡大で深め、さらに夫との縁、さらには親子2世代でお世話になっている母校に、このような形で関わらせていただくことができたことに心から感謝いたします。

ウェルスダイナミクス無料診断は、無料で受験することができます。QRコードから受験いただけます。あなたの才能がわかるだけでなく、才能の活かし方を知ることができます。

さらに、あなたの取扱説明書(70ページ)を得られる有料診断は、割引でご案内することができます。有料診断やワークショップなど、ご質問等ありましたら、お気軽にお声かけください。

最後に

あなたの才能が発揮され、豊かさが広がっていきますように。

あなたの未来を心より応援しています。

問い合わせ先：メール：info@manseki-business.com



大学紛争から出発した学生生活（卒業後50年目を振り返って）

生産機械工学科 昭和48（1973）年卒

生産機械工学研究科修士課程 昭和50（1975）年修了

濱元 隆夫



私が岡山大学工学部生産機械工学科に入学したのは昭和44（1969）年4月である。今年、昭和48年の卒業後50年目の記念すべき年にあたるので筆を取った。（この投稿内容は、S55（1980）の岡山大学工学部20年史に投稿した内容と一部重複していることをご確認ください）

私が岡大に入学した昭和44年という年は前年から日本中で大学紛争が勃発し、東京大学の安田講堂立てこもり騒動が起こったのもこの年の1月と記憶している。

前年のS43から全国の大学で火の手が上がっていた紛争の種は東大安田講堂事件でピークに達した。岡大工学部の入試も学生運動の余波で学内封鎖され県立操山高校で実施された。底冷えし、粉雪の舞う非常に寒い暖房なしの教室で震えながら受験したことを覚えている。私自身が1年間浪人生活を送っていたので背水の陣で入試に臨んだのであるがこのような異常事態の中で合格電報を受け取った時は私よりも周りのものがほっとしたようだ。運よく入学できたもののいつ入学式は開かれるのか一向に連絡が来ない。その間に南北道路で学生の投石により機動隊員1名死亡するという事件が起き、ますます紛争が長引くきっかけとなった。

大学より4月末に付属中学の校庭で全学集会を行うので新入生も参加するようにとの通知を受け取った時は始めて大学生になったことを実感した。

しかし、この集会も学生の妨害で学長の説明も中止となり、ただ集まっただけとなった。

私がつめえり学生服姿であったためにすぐに新入生と分かったのか、校庭で新聞記者にインタビューされた。名前を明かさないとするのでそれまでの不平、不満を言いたい放題しゃべったら、その日の夕刊で実名入りで報道されたのには驚くと同時に後悔した。

工学部と医学部薬学科だけが一番早く5月末に入学式が行われた。しかし、工学部は2か月も経たない7月に大教室で学生集会がありあっさりスト権が確立し、再び封鎖された。

学生集会後、訳のわからないままに学内をデモった時は、入学するまでの紛争に批判的から肯定的な考え方に変わっていることがはっきりと分かった。

今から考えると、我々昭和44年生産機械工学科同級生の友情・絆はこのスト封鎖中に築かれたものと確信している。授業は無く、時間は持て余すほど有る。

近くの女子大との合ハイ（当時は「合コン」ではなく「合ハイ（キング）」と言った。

現在のようにスマホも電卓も無い時代で合ハイ幹事は苦勞した）、蒜山キャンプ、岡山駅での署名運動等青春を謳歌した。

9月には建物封鎖が解除され授業は始まったがダレた生活がすぐに元に戻るはずはない。

津島祭での模擬店、女装行列等、新入生の活動があまり盛んでなかった時だけに我々の新入同級生活動が余計に目立った。その中でも、昭和45年5月に行われた工学部10周年記念ソフトボール大会の優勝は最も印象深いものとなった。

とにかく、開かれる催し物への参加意欲は旺盛で、時間と若さは余るほどある。

何も練習もせずに強豪の諸先輩のチームにあれよあれよという間に勝ち進み優勝してしまったのには我ながら驚いた。この大会の優勝カップと賞品の缶ビールをもって運動公園に行き挙げた祝杯の美味しさは言うまでもなかった。

そして決勝戦当日練習のため講義を休講義にしてくださいと教養部の英語のH先生に翌週の講義の時に優勝報告がてら缶ビールをプレゼントしたところおめでとうとそこで一気に飲み干されたのには感激した。

この優勝カップには一つのエピソードがある。

かなり年数が経過したので時効としてご容赦願いたい。

工学部事務局から第二回ソフトボール大会を開くので昨年の優勝カップを返還して欲しいと申し出があった。

しかし、そのような返還の話は聞いておらずカップにも「工学部10周年記念大会」と刻んであるのでそのまま貰っておくべきと同級生の間では満場一致で決まった。

事務局には紛失したと取ってつけたような理由をこじつけて報告した。

このカップは同期会会長の私の独断と偏見で順次同級生の結婚式披露宴で出席するものが直接新婦に贈呈することにし、現在に至っている。

今では、あちこちに郵送するために取っ手が取れてしまい修理を重ねているのでかなりみすぼらしいものとなっているが、この取っ手も見えない位の20本以上のリボン（結婚式の日、新郎新婦の名前が書いてある）がブラ下がついている。

卒業して50年が経過したが、ほぼ毎年、同期会また忘年会を岡山で開催している。

3年前からは工学部のホームカミングデイ当日の夕方に集まり、楽しく呑み、歓談している。S44の大学紛争のため同期生は関西、中四国、九州と遠方から受験した者も多く、故郷に戻ったものも多い。

また後期高齢を迎える年齢（75歳）になっているが、できる限り元気な顔を会わせて、気楽に呑み、歓談する機会を設けるつもりである。

工学部同窓会会則の改正

工学部同窓会会則の改正を、令和5年6月2日開催の幹事会と令和5年7月14日開催の学科連絡委員会で審議し、決定しました。今回の改正理由は、

- ①総会、幹事会及び学科連絡委員会の役割を整理
 - ②会務又は執行について協議し、幹事会へ提案・報告を行う役員会の設置
 - ③同窓会活動へ助言を行う顧問の設置
- です。

主な変更点は、下記の通りです。なお、改正された会則は工学部同窓会ホームページに掲載しています。

(役員)

第5条本会に代表幹事1名、副代表幹事若干名、幹事、会計幹事若干名及び監査幹事2名を置く。

第7条幹事は各系(コース)同窓会より選出するほか、幹事若干名は岡山大学工学部現教員より選出する。なお、必要に応じて学科連絡委員を置くことができる。

(顧問)

第8条本会に顧問を置くことができる。顧問は役員会の推薦により代表幹事が委嘱する。

(会議)

第10条 会議は、総会、幹事会及び役員会とする。

(総会)

第11条 総会は、本会の重要事項について審議が必要な場合において、幹事会の議を経て、代表幹事がこれを招集する。

(幹事会)

第12条 本会に幹事で構成する幹事会を置き、次のことを行う。

- (1) 会則の改廃及び本会の基本的な活動方針等の決定
- (2) 事業計画及び予算の決定
- (3) 会計報告及び事業報告の承認
- (4) その他本会の運営に関する決定または承認

(役員会)

第13条 役員会は、代表幹事、副代表幹事で構成する。

- 2 役員会は、本会の会務の企画又は執行の必要に応じて随時開催し、協議の結果は幹事会に提案並びに報告をする。

(雑則)

第20条 この会則に定めるほか、本会に関して必要な事項は、幹事会の議を経て別に定めることができる。

- 2 幹事会は、会則等重要な規定の改正を会報により報告するものとする。

付 則

本会則は、令和5年7月15日から施行し、令和6年4月1日から適用する。

寄付者一覧

工学部同窓会会員の皆様からご寄付いただきました。ご協力ありがとうございました。なお、匿名希望の方につきましては、御名前を載せておりません。

機械工学科

- 昭和39 大久保浩司
近藤伊知朗
澤木輝雄
高桑紘彦
丹下敏孝
中井義信
松林川一
山川基治
荒木睦夫
岸田昭雄
沼田信
藤田正人
近藤允峻
大瀬戸修
大野藤修
佐藤本照
森山本生
吉元利文
渡邊晃
井泰三
万代知正
戸川剛
福間義和
藤原好文
原崎進
近藤憲治
藤森(伊藤)文雄
香山裕
佐藤正明
長尾和彦
尾宮俊明
三宅三彦
唯岡和夫
岡根実
市川廣
木梨育男
芝博
杉井重睦
重谷和美
新谷一悦
渡会義夫
加納幸久
多々納朗
窪田明
藤原利章
山下哲男
湯上佳治
坂本雄二
竹森利和
西本二
宮園豊
岡城康治
天江良一
伊藤一郎
茅原雅
井川雅人
小野聡人
田小野正則
田小野和紀
小島宇雄
駒井隆
玉井克彦
伊藤伸
佐藤康
立石一郎
丹下二郎
植木太
清水圭
武田敏
塚岡英樹
板垣信一
経一学
宇田康弘
大野勇
栗原武弘
西原信博
原松博
近藤政明
田代浩之
古崎昭博
延寛彦
中塚裕之
松下俊介

- 16 三宅 隆介
17 田内 道康
20 前田 武志
22 三分一 永治
23 家村 德彬
29 近藤 雄太
高木 佑輔
川崎千佳子
30
生産機械工学科
昭和43 岡村 誠
光岡 劭
谷村 和
清水 浩一
平見 邦一
逸見 正治
枝廣 俊憲
岡崎 勉
岡崎 修二
田淵(川本) 彰
小坂 澄夫
堂田周治郎
成田明人
西尾 常
則次 照俊
武田甲郎
武田隆一
濱本満
西岡 兆
西房 慎二
花佐 彦
藤原 芳毅
砂川 博
南中 寛
中島 良
平松 介
江原 道夫
多田羅夫
廣田秋
遊塚 千
千岡 郁
矢吹 孝
太田 弘
太田 厚
村西 季
西原 兼
本城 文
宮城 勤
西川 幸
西今 芳
今井 健
岡崎 信
武田 郁
岸吹 浩
瓜本 修
本 義
徳垣 元孝
応用機械工学科
昭和59 大宅 智
62 出水 宏
63 畠中 威
平成 2 山本 泰
3 猪原 章
システム工学科
平成14 吉川 雅博
17 小杉 雅明
30 藤本 華
機械システム系学科
令和3 仁田 貴大
4 鈴木 裕由
安藤涼太郎
5 中森 馨士
大学院 機械工学専攻
昭和54 三好 達夫
平成 5 幸次
11 李 貞玉
大学院 博前 機械システム工学専攻
平成30 氏家 弘瑛
中川 陽平
令和4 ANTARA
Tasbiha Tabassum
大学院 博 生産開発科学専攻
平成3 下村 孝夫

- 大学院 博前 機械システム工学専攻**
平成30 高田 修坪
大学院 博後 ヘルシステム統合科学専攻
令和4 BUOMER HANI
MAHMOUD MOHAMMED
電気工学科
昭和41 兼井 和宏
42 井上 克彦
加藤 圭一
阪田 隆一
湯浅 修
43 秋山 芳郎
伊賀 進
板谷 淳
菊田 康夫
定兼 充二
菅原 久雄
綱島 宣武
富藤 義通
松坂 龍二
44 板野 修敬
井上 浩
岡田 実
岡田 俊輔
安原 義幸
寺土 精
寺師 精
横田 吉雄
池田 義明
石井 良和
大塚 芳生
中川 哲
矢吹 清志
48 東本(福井) 将文
49 松井 孝
50 赤澤 潔
石田 英明
中西 博幸
51 船西 繁
三宅 宏和一
53 甲野 順
高井 博文
鳥越 浩二
前田 康
清水 英範
豊岡 秀樹
山崎 弘樹
54 難波 義徳
55 難波 義徳
56 伊藤 整
大橋 和浩
倉橋 隆也
近藤 達
57 大石 正彦
62 小見山 日出男
和田 恒雄
和松 光教
一松 栄司
櫻井 章広
平成元
電子工学科
昭和47 小田 啓介
近藤 健一
48 中川 健一
渡邊 啓
49 小郷 貞
50 小野 龍
51 常広 隆
松林 聖一
山下 雄
52 神田 重人
五島 隆夫
53 児玉 信一
小林 信史
西崎 敬一
55 西島 真也
野上 耕治
川村 久男
56 前田 勝
57 井上 修司
58 信定 俊英

- 59 佐藤 信一郎
平成元 足立 博之
電気電子工学科
平成3 田井 政博
8 青野 浩二
井手 志
9 岡田 武
10 中村 典
安達 久幸
12 北岡 和久
荒巻 久明
14 塩飽 克治
15 平井 修一
22 天満 光
23 田原 陽俊
通信ネットワーク工学科
平成19 中澤 文男
藤原 康徳
沖本卓求
平山 弥
福増 宏
宮崎(吉田) 圭輔
石田 千晶
平成24 28
電気通信系学科
平成28 山崎 尊雄
令和 2 島中 俊介
3 森 貴啓
大学院 電子工学専攻
昭和50 玉城 健
平成4 中(費中) 偉
大学院 博 知能開発科学専攻
平成9 帆足 孝文
大学院 博前 通信ネットワーク工学専攻
平成22 竹久 聖気
情報工学科
平成3 平山 浩二
村上 肇
廣 朋
近藤 八木謙次郎
4 江口 哲也
5 井上 裕一
7 長谷川(木下) 剛毅
13 中村 義幸
17 藤田 卓志
工業化学科
昭和39 菊地 俊二
北村 吉朗
坂東 靖夫
山本 浩平
吉尾 哲夫
浅沼 美明
石河内 達雄
船越 利仁
安井 茂男
柏田 和哉
41 森 康弘
42 歳山(宇津見) 健一
川崎 史朗
43 紀平 友生
赤井 浩
白石 良二
田村 輝
藤原 正彦
山口 博
44 浅野 博
45 尾坂 和宏
46 鳥居 明義
難波 勝一
福岡 中村
江川 林
日下部 和則
正良

- 中村 明彦
橋森 耕行
前田 二治
浦松 洋博
村義 義博
国府 政則
丸作 博
千坂 勉
小倉 章
50 倉包 和秀
長野 薫
52 逢澤 信
高橋 一朗
渡部 昭示
53 小林 裕
小徳 晃
54 小林 猛
西井(小林) 正人
真聡
塚村 正五
塚場 五朗
馬沼 章也
浅沼 尊也
糸鳥 植
日笠 清介
植木 博志
辻田 茂樹
池本 文造
越智 悟
智茂 原
檀 健太郎
藤原 昌夫
田健 隆生
津崎 幸治
福川 浩行
湯川 裕行
上田 幸治
川端 浩二
山根 裕行
平成元 2
合成化学科
昭和45 片山 光
鎌木 史朗
井貴志
酒井 誠一
吉川 浩二
大坂 浩二
河本 徹夫
近藤 正嗣
渡辺 純男
渡辺 光男
片山 秋徳
山田 樹
田中 公二
矢野 靖彦
尾崎 達雄
川辺 博
西森 康夫
北島 真久
白田 眞久
50 三木(三村) 篤幸
51 祇園 讓
友野(新川) 博昭
高田 志和
53 小島 淳
藤井 清司
多田 章治
橋本 資浩
藤田 順
横溝 進
大坪 正啓
56 那須 誠
57 三宅 誠治
藤井 大樹
村田 正樹
西田 良樹
三木 相煥
59 河本 真作
山本 真司
江田 卓司
62 布川 隆志
63 中村 浩
民部 佳代
山下 隆一
森 浩一
平成元 2
精密応用化学科
平成4 浅原 雅浩
坂田 敏和
田島 良哲

- 6 末神 泰史
武田耕太郎
8 生越(山西) 正恵
9 古本 哲男
11 桐山 孝之
13 横山 陽三
14 泉 好古
物質応用化学科
平成19 宮本 莊士
22 大林 亮子
23 片岡 慶隆
24 赤木 晴智也
25 高見 佳志
生物応用工学科
平成3 亀高 邦夫
杉原 高介
辛 英哲
6 宮崎 和久
8 三村(池田) 朋也
10 三木 栄博
生体機能応用工学科
平成7 中山 清貴
村上 裕
生物機能工学科
平成12 佐古(田尻) さや香
13 吉岡 朋彦
14 谷原 潤一
多賀谷 裕恵
15 板谷 恒平
16 岩薮 賢
19 黒本 奈美子
20 正岡 伸孝
化学生命系学科
平成29 櫻井友理希
令和3 二岡 修造
30 市来 綾乃
4 坂下 萌
5 檜垣 祐介
大学院 工業化学・合成化学専攻
昭和48 野上 潤志
53 今林 頼信
大学院 精密応用化学専攻
平成6 徐 光亜
大学院 博前 物質応用化学科
平成29 清水 貴大
大学院 博 物質科学専攻
平成元 加藤 康夫
旧教職員
大岸 真爾
岡 琢磨
田中善之助
阪田 祐作
井上 茂次
宮崎 隆治
高賀 金谷
谷尾 健一
宇野 義幸
柳原 精夫
東江 浩一
中西 一弘
令和5年度分
ご寄付者 555 名
(匿名希望 116 名)

同窓会会計報告（令和4年度）

一般会計

収支計算書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I. 収入の部				
1. 入会金収入 会費収入	4,780,000	4,630,000	150,000	463名 @10,000×463名
2. 寄付金収入 寄付金収入	1,017,000	1,017,144	△ 144	562名 1,141口
3. 雑収入 受取利息	100	72	28	普通預金、郵便貯金
当期収入合計(A)	5,797,100	5,647,216	149,884	
前期繰越収支差額	6,562,418	6,562,418	0	
収入合計(B)	12,359,518	12,209,634	149,884	
II. 支出の部				
1. 事業費	3,963,000	4,156,723	△ 193,723	
通信運搬費	1,210,000	1,192,181	17,819	会報郵送料 他
会議費	80,000	95,497	△ 15,497	ホームカミングデイ懇親会
学部教育支援経費	60,000	0	60,000	
旅費交通費	100,000	30,640	69,360	関西支部総会出席
印刷製本費	2,027,000	2,318,199	△ 291,199	会報 他
消耗品費	10,000	6,248	3,752	製本テープ 他
助成金支出	450,000	450,000	0	関東・関西・岡山支部
同窓会活性化経費	6,000	33,686	△ 27,686	レンタルサーバ 他
雑費	20,000	30,272	△ 10,272	一斉メール 他
2. 学科事業費	1,504,000	1,567,000	△ 63,000	
学科配分会費	1,404,000	1,467,000	△ 63,000	489名 @3,000円
ホームカミングデイ補助	100,000	100,000	0	
3. 管理費	566,000	566,000	0	
業務委託費	500,000	500,000	0	(公財)岡山工学振興会
〃	66,000	66,000	0	同窓会員データメンテナンス 小野高速印刷㈱
当期支出合計(C)	6,033,000	6,289,723	△ 256,723	
当期収支差額(A)-(C)	△ 235,900	△ 642,507	406,607	
次期繰越収支差額(B)-(C)	6,326,518	5,919,911	406,607	

基金特別会計

収支計算書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

(単位：円)

科 目	決 算 額	備 考
I. 収入の部		
1. 寄付金収入 寄付金収入	0	
2. 雑収入 受取利息	0	
当期収入合計(A)	0	
前期繰越収支差額	2,059,655	
収入合計(B)	2,059,655	
II. 支出の部		
1. 事業費	0	
当期支出合計(C)	0	
当期収支差額(A)-(C)	0	
次期繰越収支差額(B)-(C)	2,059,655	

2024年度 岡山大学工学部同窓会報告会・懇親会の開催について

本報告会では、昨年からの同窓会の活動を報告します。また、報告会終了後には、懇親会を予定していますので奮ってのご参加をお待ちしています。

工学部同窓会報告会

日時：2024年11月2日（土） 15：30 - 16：30（受付開始 15：00）
場所：岡山大学共有共創コモンズ講義室（2階）
議題：活動報告他

工学部同窓会懇親会（報告会后、17：00 - 18：30；受付開始 16：30）

場所：岡山大学南福利施設ピーチユニオン4階
懇親会費：2,000円（含アルコール、会費以上の内容です。工学部同窓会総会受付にてお支払いください。）

事前参加申し込み：メール（工学部同窓会事務局、ofst@okayama-u.ac.jp）にて、氏名、学科、卒業年、連絡先等を、10月18日（金）までにご連絡ください。詳細は工学部同窓会HPでご確認ください。

※ ホームカミングデイ開催について

2024年のホームカミングデイは、大学祭開催期間中の11月2日（土）に開催されます。
詳細は岡山大学HPと工学部HPでご確認ください。

同窓会事務局より

同窓会報、ホームページへの寄稿のお願い

会員の皆様からの寄稿をお待ちしています。掲載記事の内容、書式等は、既報の会報、HPを参考にしてください。なお、内容により事務局・監事で採否の判断、一部変更等をお願いすることがありますのでご了承ください。

支部活動の助成について

工学部同窓会の支部が、総会、懇親会等を行う場合に、通信費（小野高速印刷株を利用した実費）及び懇親会等の会合に要する経費（150,000円/年）を助成します。詳細は事前に事務局にご相談ください。

住所変更等の連絡のお願い

会報は全員に登録された住所に配布しています。住所変更がありましたら、メールまたはハガキ等により、お名前、住所、卒業学科（専攻）、卒業年度、電話番号、メールアドレス等（差し支えない範囲で）事務局までご連絡ください。会報以外の情報もメールにて提供します。

寄付のお願い

同窓会は、皆様からの格別のお力添えに支えられて今日まで活動を行ってまいりました。また、事業継続と今後一層活発な同窓会にするためには、皆様からのご寄付に頼らざるを得ません。ご寄付は、一口千円からですが、ご厚意に応じて何口でも結構です。よろしくお願い申し上げます。

郵便振替 01270-4-5233 岡山大学工学部同窓会

*同封の郵便振替用紙またはコンビニ支払い用紙をご利用ください。通信欄にはお名前、住所、卒業学科（専攻）、卒業年度、電話番号、メールアドレス（差し支えない範囲で）、会報への氏名掲載の可否等をご記入ください。

岡山大学工学部同窓会報第36号をお届けします。本号は、退職された先生方のご挨拶、各系の近況報告、OBの方々の職場紹介や各支部の報告などに加え、日本学士院賞受賞の紹介や興味深いエッセイなど、充実した内容となりました。ご多忙の中ご寄稿いただきました卒業生の皆様、本学関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

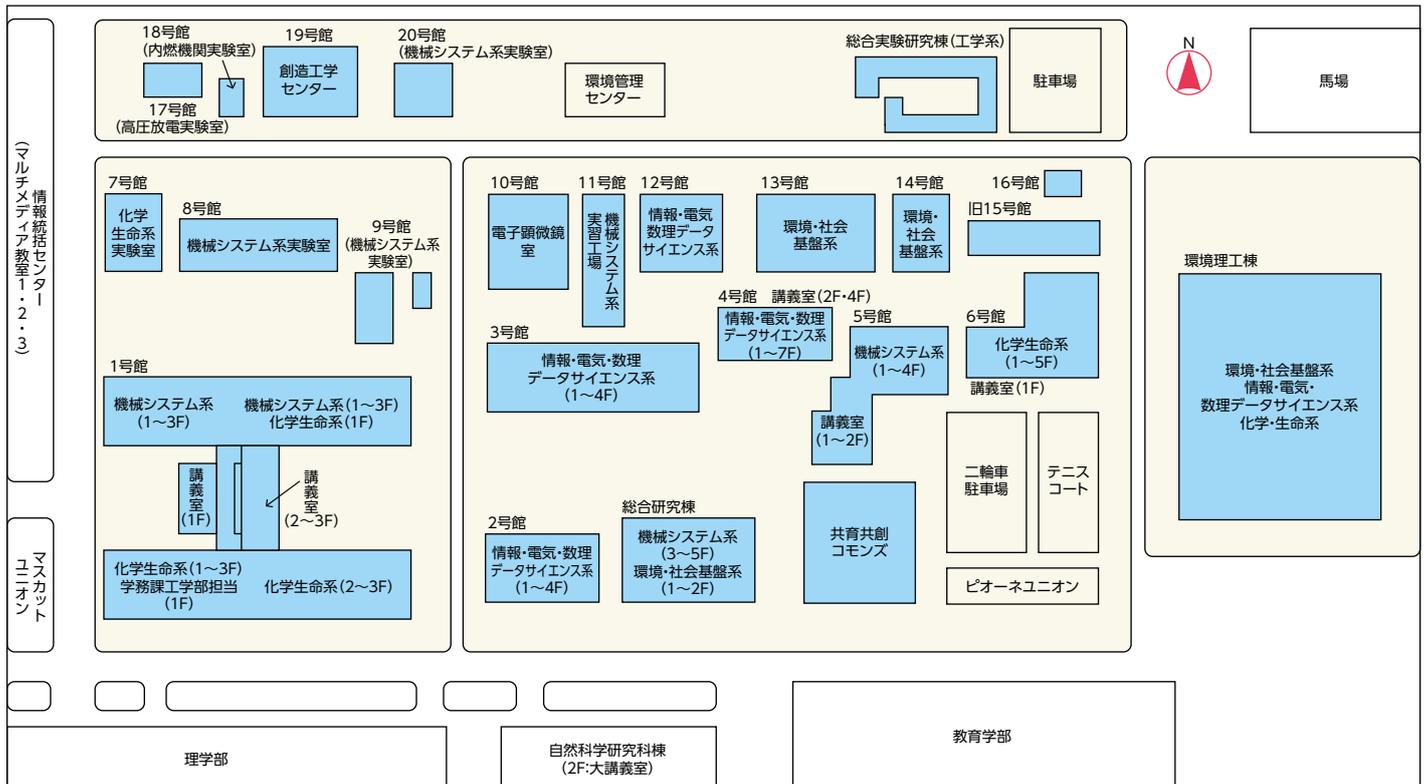
工学部と環境理工学部が再編統合され、今年で4年目を迎えました。新工学部の1期生として入学した学生たちも4年生となり研究活動に励んでおります。そして今年度末には卒業し、工学部同窓会に卒業生の一員として加わります。大学時代を共に過ごした仲間との親睦、さらには先輩や後輩との交流の場として、同窓会をうまく活用して欲しいと思います。願わくは、若いうちから同窓会活動にも積極的にに関わり、人脈を広げるとともに、同窓会運営に新たな風を吹き込んで欲しいと思っています。

業し、工学部同窓会に卒業生の一員として加わります。大学時代を共に過ごした仲間との親睦、さらには先輩や後輩との交流の場として、同窓会をうまく活用して欲しいと思います。願わくは、若いうちから同窓会活動にも積極的にに関わり、人脈を広げるとともに、同窓会運営に新たな風を吹き込んで欲しいと思っています。

会員の皆様には、引き続き同窓会へのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年度 学内代表幹事 樋口 輝久

工学部建物等配置図



■編集・発行：岡山大学工学部同窓会事務局

〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学新技術研究センター内

TEL・FAX (086) 255-8311

■メールアドレス：ofst@okayama-u.ac.jp

■ホームページ：https://oka-u-eng-alum.sakura.ne.jp/

■印刷所：小野高速印刷(株)

〒670-0933 姫路市平野町62 TEL (079) 281-8837